

# 今永連勝ならず...

## 1回戦

2014年度春季リーグ戦  
第4週 4月29日  
4勝2敗

## チームも逆転負け

# 亜大5-4駒大



前半、思うような投球が出来ず悔しい表情を浮かべる今永

王者・亜大との初戦、相手投手の前に4回までパーフェクトで抑えられる。5回の猛攻で試合の主導権を握りかけたが9回のミスが響き勝ち越しを許し敗れた。

2回、本塁打を打たれ、先制点を許す。続く4回でもさらに1点を追加され苦しい展開に。だが相手投手・山崎(4年II帝京)の好投の前に無安打で迎えた5回裏、駒大打線は勢いを見せる。斎藤導久(政大)が二塁打で好機を作ると、続く1死一、三塁の場面、米満一聖(経一)が中前安打で1点を追加。その後、前田滉平(法3)が適時二塁打を打ちこの回に一举4点を返し相手を突き放す。

だが1点リードで迎えた9回、試合は予期せぬ方向に動く。8回まで投げ続けたエース今永(昇太(経3))の脚がっつき、監督判断で降板。片山雄貴(商3)が継投するが安打と四球、捕逸で同点に追いつかれ、その後適時打を打たれそのまま逆転負けを喫した。

相手にとっては理想の展開だった。戦略として、今永にいかにも球数を投げさせるかをねらっていた。亜大の生田勉監督は「前半だけで今永が100球近く投げていることで後半に勝負できた」と明かした。

今カードは優勝に近づいたために最も重要なカード。今永は一完投しないというエースとして役割を果たしていない。体力面でも投球面でも成長しなければ」と振り返り、今後の課題を語った。打線の強化と投手陣への援護が優勝を左右することだろう。

亜大 010 100 102 5  
駒大 000 040 000 4

打安点  
(5)砂川 311  
(4)前田 312  
(6)下川 400  
(8)江越 400  
(7)斎藤 410  
(3)福山亮 310  
DH米満 311  
(2)木下 200  
(9)伊藤修 300  
計 2954

▽二塁打=斎藤

回 打安責  
今永 8 3463  
●片山 1 621

文：高橋 成美  
写真：五十嵐秋音

## 王者の壁厚く...

## 連敗で自力優勝消滅

# 駒大1-6亜大

駒大 001 000 000 1  
亜大 000 101 130 6

## 2回戦

2013年度春季リーグ戦  
第4週 5月1日  
4勝3敗



【左】適時打を放った砂川



【右】4回からの猛攻を止められなかった。

1点リードの4回に同点に追い付かれると、6回に犠打野選で勝ち越しを許す。打線も3回以降は得点を挙げられず、2連敗で勝ち点を奪うことは出来なかった。これで自力優勝の可能性が消滅した。

打安点  
(9)江越 410  
(5)砂川 411  
(4)前田 300  
(6)下川 310  
(7)斎藤 400  
(3)福山亮 310  
DH米満 300  
H長谷川 100  
(2)高橋亮 310  
H山口 100  
(8)犬伏 300  
計 3151

▽二塁打=砂川

回 打安責  
●片山 52/3 2341  
箱島 11/3 600  
高橋涼 1/3 423  
中山 2/3 200

初戦を落として迎えた絶対王者・亜大との第2戦。優勝のためにも落とせない一戦だったが、試合後「力の差がはっきりと出てしまった」(砂川)。「試合運びを見て強さを感じた」(江越)とそれぞれ振り返るようになり、完敗という結果に終わった。

3回、1番に入った江越大賀(法4)が左線二塁打を打ち好機を作ると、続く砂川哲平(法4)の中前安打で先制点を挙げる。だが、このリードを守り切ることが出来ない。4回、先頭打者を失策で出塁させると、犠打と適時打で同点に追い付かれてしまう。6回には、無死一塁の場面で捕逸。走者は三塁まで進み次打者の犠打野選で勝ち越し点を献上。

守備の乱れからの失点に西村亮監督は「勝手に自分たちでプレッシャーを与えてしまった」と厳しい表情だった。

優勝への道のりは険しくなったが、この日6回途中2失点の粘りの投球を見せた片山雄貴(経3)は「あと2カード、2連勝で終わらせるようにしたい」と前を向いた。(山本春熙)